

目的：被服意匠に関する基礎的な画面構成の作品は、気質特徴および個性的表現等の把握のために役立ち、適正な精神判定（性格判定）、作品の解釈判断を要せまらず、作者の表現意図をよくくみ取る事が可能であるならば、被服意匠に関する学習は一層の効果とあがると思われる。本報告は、画面構成による作品の分析、日常の着装状態の調査、精神・性格検査等を実施し、三者の関連にもとづいて、被服意匠の具体的展開を検討した。

方法：被験者は本学54年度開講の被服学後講生約40名である。調査期間は54年4月～6月の3ヶ月間。画面構成Aは自由なテーマを選択しその理由を記させ、用いた色調数は7とした。画面構成Bは統一テーマを与え色調数は7とした。精神性格検査は、内田クレペリン精神検査（以下クレペリン検査と略す）、矢田部ギルフォード性格検査（以下YG検査と略す）、パースナリティイレベントリー、服飾等に関する自己診断等を実施した。以上の諸結果を総合的に判定した。

結果：被験者をクレペリン検査、YG検査を中心としてグループ分け、各グループの特徴を個別的な特性と比較し画面構成のみで個性的類型の弁別が可能か否かに取り組んだ。その結果、①グループによる色調の出現傾向に夫々特色がみとめられた。②個性的特徴は画面構成・クレペリン検査によくあらわれ、YG検査・自己診断の項である。③画面構成による感覚のトレーニングが、ひいては生活の中において「物」へのゆきかけに発展し選択力、批判力をたかめることも考えられた。